

■ 概要

平成 23 年 5 月、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市の 4 者が一体となって取り組む体制として、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立。

今回（第 9 回）の会議では、平成 27 年 3 月に文化庁に提出する推薦書原案が了承された。併せて平成 26 年度の事業報告、平成 27 年度の事業計画案が諮られ、承認された。

■ 会議要旨

1. 開会（会長 代理出席 小西 大阪府副知事挨拶）

前回、平成 25 年に国内推薦を目指して推薦書原案を提出したが目標が達成できず、4 者で協議し、平成 27 年度の国内推薦、平成 29 年度の登録を目指すという新たな目標を設定した。その後、国内外の有識者、文化庁、宮内庁の皆様にご指導を頂き、熟度を高め、国内推薦獲得に足る推薦書原案を完成させることができたと思っている。保存管理の観点から問題となっていた緩衝地帯の設定についても、4 者協調して進めることができ、あとは今年の夏ごろ国内推薦資産に選定されるのを待つのみであり、引き続き 4 者一丸となって取り組みを進めていく。

2. 議事（本部長の竹山 堺市長が議事を進行）

〔議題 1〕 推薦書原案について

- ・資料「議題 1」に沿って事務局が説明。

〔議題 1 質疑〕

（小西 大阪府副知事）

- ・海外専門家にとって理解されやすい推薦書原案を作成するにあたり、それを検討するのに留意した点はどこか。また、評価基準（ii）について適用しないとのことであるが、摘要する基準が 3 つから 2 つに減ることで資産全体の評価に影響することはないのか。

（事務局）

- ・今回の推薦書原案作成に際しては、英語にも堪能な考古学、世界遺産、都市計画の専門家、あわせてオブザーバーとして文化庁・宮内庁にも参加いただいている推薦書作成検討委員会の中で、推薦書原案の記載ぶり、各種課題の解決方法について議論を行い事務局で作成した。関係機関である文化庁・宮内庁が恒常的な検討メンバーに加わったことにより、短時間に効果的な議論ができたと考えている。

世界遺産に登録されるためには、1 つ以上の評価基準に該当する必要があるが、百舌鳥・古市古墳群については、評価基準（iii）、（iv）で顕著な普遍的価値を説明し得ると考えており、評価基準（ii）を除いても評価が損なわれることはない。専門家の先生にも賛同いただいている。

* 議題 1 について了承。

〔議題 2〕 平成 26 年度事業報告、〔議題 3〕 平成 27 年度事業計画について

- ・資料「議題 2-①」「議題 2-②」「議題 3-①」「議題 3-②」に沿って事務局が説明。

[議題 2、3 質疑]

(竹山 堺市長)

・提案であるが、堺市では平成 26 年 3 月に堺市博物館内に「百舌鳥古墳群シアター」をオープンさせ、百舌鳥古墳群の価値を体感いただけるようバーチャルリアリティ作品の上映を行っている。本年 3 月 14 日までに 4 万 4 千人の方にご覧いただいております、非常に好評である。今後、百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を国内外に発信していくにあたり、推進本部会議事務局においてもバーチャルリアリティ作品など映像を活用した PR を行っていくことを検討願いたい。

* 議題 2、3 について了承。

(議長 竹山 堺市長)

・議題 2 の平成 26 年度最終決算については、後日各委員への説明、評決を行う。

[各委員からの発言]

(北川 羽曳野市長)

・古市古墳群が存在する古市地区については、菅田八幡宮などの神社仏閣、また古市古墳群に通じる東高野街道や竹内街道など、多くの歴史文化遺産が現存していることから、歴史環境と調和した街並みの形成を今後も図っていきたいと考えている。

当市の玄関口である古市駅にある観光案内所については今年度から有人化を図り、多くの方のご案内をしたい。古墳群周辺の整備に力をいれ、平成 27 年度の国内推薦をぜひとも勝ち取りたいと考えている。

(國下 藤井寺市長)

・市内の文化財にふれる機会を多くもち、地域を大切に思う心を育む教育を進めており、来年度で 5 年目を迎える。今年度は、「市民とめざす世界遺産講演会」を実施し、小学校児童の発表とともに講演会を開催し市民の機運醸成につとめたところ。教育委員会で作成している「世界遺産学習ノート」については、点字教材化を図ると共に、3D プリンターを活用したさわれる教材化を実施し、大阪府及び堺市の点字図書館に寄贈していきたい。

平成 27 年度には来訪者対策に力をいれ、説明板、展示パネルの刷新、道路サインの設置、古墳・文化財の説明の多言語化、Wi-Fi 環境の整備などを行っていく。平成 27 年度の国内推薦獲得、平成 29 年度の登録に向けてさらなる取り組みを進めていく。

(竹山 堺市長)

・平成 25 年度国内推薦見送り決定後、約 1 年半をかけて専門家の皆様から様々な意見を頂き、文化庁、宮内庁とも協議し推薦書原案の熟度を高めることができたと考えている。課題となっていた緩衝地帯の問題についても、昨年 4 月に推進本部会議において方針を確定し、その後市民の皆さんに十分な説明を実施した。今後は必要な手続きを進め、平成 28 年 1 月の施行を目指していく。

宮内庁とは世界遺産登録後の陵墓の保護・管理について協議を重ね理解を得ることができた。これらにより世界文化遺産登録に向けて大きく前進することができたと考えている。今後も推薦書原案の更なるブラッシュアップ、英文の作成にもスピード感をもって取り組んでいきたい。機運醸成にも引き続き取り組み、手綱を緩めることなく 4 者一丸となって平成 27 年度の国内推薦、平成 29

年度の世界遺産登録を実現させたい。

(小西 大阪府副知事)

・3市から機運醸成、緩衝地帯設定、周辺環境整備をさらに進めるという話があった。大阪府としては、本日決定した推薦書原案により平成27年度の国内推薦資産に選定されるよう国への説明をしっかりと行っていく。その後、ユネスコ世界遺産センターに提出する英文の推薦書について文化庁、宮内庁とも協議し作成を進めていきたい。包括的保存管理体制については、陵墓を管理される宮内庁と協議しながら、正式な推薦書を提出する平成28年1月目途に構築できるよう進めていきたい。

(議長 竹山 堺市長)

・平成27年度の国内推薦選定、平成29年度の世界遺産登録を目指して、4者が一丸となって頑張っていきましょう。

以上